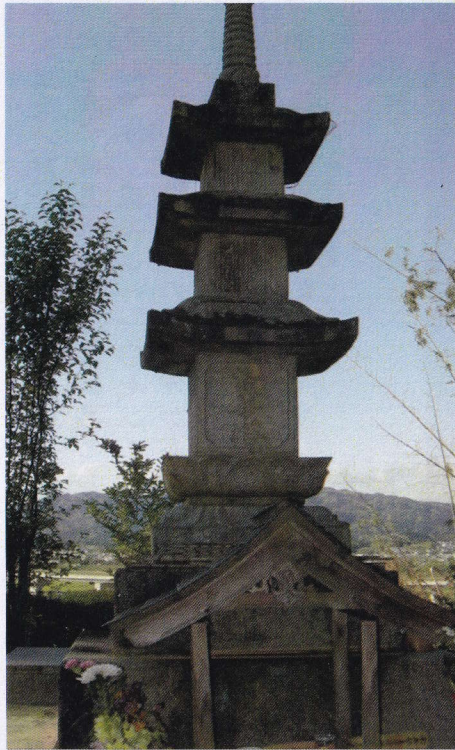


法華塔



法華塔の字は普明院元環様の書

石地藏菩薩



左 永正 16 年 (1519) 8 月  
時正行重と記されている  
右「三界万霊」「法界衆生」と  
記されている



円満山 菩提禅寺 榮家



本堂正面の寺額

## 本尊阿弥陀如来の由来

木造の阿弥陀如来立像。慈覚大師（円仁延暦寺三世座主）の自作といわれ、明治四十二年（一九〇九）四月五日国宝美術品として指定されています。現在は国重要文化財です、像高は一一〇センチスラツとした平安時代の作で檜の寄木造りで、漆箔仕上げです、印は九つの結び方があるうち上品下生です。そして、六角七重の蓮華座にお立ちです。細眼の彫眼（鑿で彫っただけ）後の時代になると、ほとんどの像にガラス玉が入ったのである。衲衣線は流麗で、藤原時代（平安時代、中、後期）の姿そのものです。



木造阿弥陀如来

## 菩提禅寺の由来

菩提禅寺は少菩提寺の37の宿坊の1つに阿弥陀院があり、その跡地に妙蓮華院が建てられた。当初は「興福寺出張所阿弥陀院」と呼ばれていました（菩提禅院と称した）この院が菩提禅寺の前身である現在は書院として残っている。

享保8年（1723）日野町松尾にある黄檗宗正明寺の律師寂門道律禅師を拜請、開基として創立して、当時日野町の商家島崎仙太郎家の祖先光岳居士と菩提寺の伊地知文八家の先祖実岩居士によって寄進された。その後、享保16年6月円満山菩提禅寺に改名される。



菩提禅院の本堂（現在は書院）